



五箇小学校 六年  
荒田 阿友美



五箇中学校 三年  
柴木 真和



出雲北陵高校 一年  
山崎 綾香

## 竹島について学んだこと

五箇小学校 六年 荒田 阿友美



「今度、竹島について学習します。」と先生から言われたとき、私は五年生の社会の時間を思い出しました。コンクリートで固めた沖の鳥島や与那国島などから領土や領海の大切さについて学習しました。また領土問題として歯舞諸島、色丹島、国後島、択捉島の北方領土の学習もしました。教科書にはなかったけれど竹島の問題についても少し学習したのを思い出しました。先生の話のあと、友達の中には、「それどこだ。瀬戸内海かどこにあるのか。」という声も聞かれました。

また、隠岐汽船の船から見える「かえれ、島と海」のことじゃないかという友達もいました。だから、私たちは竹島について学習するのが楽しみになりました。当日、講師の藤田茂正さんが来られました。藤田さんが竹島や郷土の事をよく知っておられて、驚きました。最初に場所の確認をしました。日本には多くの竹島があるけど、国際問題となっているのは私達の住んでいる隠岐の島の北西にある島だとわかりました。地図で見ると本当に点のようでした。昔の戦国船という船では、二日から三日ぐらいかかったのが、レインボードと二時間ぐらいでいけるそうです。隠岐の島からそんなに近い島なのに日本の領土でないのが不思議でした。一五〇〇年代に竹島を発見してから、調査や探検をした人、漁をするために竹島に行った人がたくさんいて驚きました。また、アワビがたくさん捕

## 竹島と隠岐島民

五箇中三年 柴木 真和

隠岐汽船で西郷港に入港すると、「かえれ竹島・島と海」、また、五箇村の久見漁港にも同じスローガンとともに竹島とアシカが描かれた看板が掲げられています。

私たちが知る竹島は、日本海に浮かぶ小さな島であるということ、現在は日本と韓国との間で



れると聞いていたけど、資料を見たら千二百貫とあってその数に驚きました。木材も丈夫なものがあって、福浦の弁天島の鳥居にも利用されていることをはじめ知りました。いくら仕事とはいえ、船外機も無線もない小さな船で、風や潮を読んで竹島に行くなんて昔の人は勇気があるなあと思いました。お話の中で一番面白かったのはクラスの友達の先祖がイカ釣りに行って遭難していたことです。運良く助かって葬式をせずにすんでよかったです。そのときの手紙を見せてもらいました。全然使わない言葉もあったし、字も今と違ってすごく難しかったです。友達も自分の先祖のことがよく分かったと喜んでいました。今回の学習を通して私は二つの事を感じまし

た。一つは、竹島がすごく身近なものに感じられたことです。私達の先祖が竹島と密接な関係であったことがよく分かりました。竹島に行くことができた昔の人がうらやましいです。私たちが大人になるころには竹島が日本に返ってきてほしいです。そうしたら私は野生のアシカを見たいです。友達はかなぎ漁やもぐり漁をしたいと言っています。もう一つは藤田さんのように竹島について教えてくれる人がいなくなっていくのではないかという心配です。だから私は今回学んだことを自分たちの子どもにも、伝えていきたいと思いました。そして近い将来竹島に自由に行ける日がくればいいなあと思っています。

## 竹島の領土標識と漁猟風景



昭和28年(1953)島根県と海上保安庁が合同で建てた領土標識

